盆栽の技術

大宮盆栽美術館では次に紹介するような栽培技術が見られます。これらの技術は数世紀にわたり、人々の手によって受け継がれてきたものです。

剪定

剪定とは不要な枝や育ちすぎた枝を取り除く作業で、盆栽を理想の形にするためにはとても大切なものです。この作業には想像力だけでなく、器用さも求められます。切り落とした枝は元に戻らないため、盆栽家は枝を切った後の姿を頭に浮かべてから、剪定を行わなければいけません。

針金かけ

針金を使って木の成長する方向を補正することができます。この作業は適切な木の成長段階を見極めつつ、熟練の技をもって枝を傷つけないように行わなければなりません。

枯れ枝を作る：ジンとシャリ

これは常緑の松柏に使う高度な技術です。枝や幹の芯をむき出しにした枯れ木を作ることで、風や雪、雷などにさらされた木の様子を表現します。この枯れ木になる部分が枝の場合は「神」、幹の場合は「舎利」と呼ばれます。この状態は皮を神用の特別なペンチやカッター、サンドペーパーを使って取り除くことで作り出します。仕上げに防腐剤として石灰硫黄合剤を使って、腐食を防ぎます。

葉刈り

落葉樹の盆栽では初夏に葉を刈り取ることがあります。こうすることで冬になる前に木が新しく小さな葉をつける状態を作り出せます。盆栽のバランスを取るために、一部だけ葉刈りすることもあります。

植え替え

盆栽は木の種類に応じ、定期的に植え替えしなければなりません。植え替えの前には育ちすぎ、絡まってしまった根を剪定します。また、植え替えには鉢の中で空気を通しやすくする効果もあります。

水やり

水やりは栽培作業の中でも最も基本的、かつ大切なものです。通常、木には毎日水をやらなければならず、健康な個体であれば水をよく吸収してくれます。弱っている木に水をやりすぎると、腐食を早めてしまう危険性があるので、盆栽に水をやる時は土の乾き具合に注意を払う必要があります。